

科目名	総合日本語Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	20単位	時間数	300時間	担当者	藤井成樹		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)1年						
授業概要	<p>初級の学習を終えた学生を対象に、次のような技能を伸ばすことを目的として授業を行います。</p> <p>①理解できる、また適切に使用できる語彙や表現を増やす。 ②発話意図や場面に応じて適切に表現が使い分けられる。 ③文、及び文章の構造を理解し、まとまった内容の文章を読み書きできる。</p>						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		日常身近に体験する出来事や社会的な話題について、自分の感想や意見が理由とともに説明できる。	
	○	○		○		異なる視点や考え方を持つ相手とも、興味・関心を持って情報や意見の交換ができる。	
テキスト・教材 参考図書	平井悦子・三輪さち子 『中級へ行こう第2版』 スリーエーネットワーク 2016年 松田浩志・亀田美保 『中級から学ぶ日本語三訂版』 研究社 2015年 アジア学生文化協会 『TRY! N2』 アスク出版 2016年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1~12	第7課・第8課				授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)	
	13~25	第9課・第10課				授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)	
	26~33	第1課 文法1				授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)	
	34~41	第2課 文法2(1)				授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)	
	42~49	第3課 文法2(2)				授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)	
	50~57	第4課 文法3				授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)	
	58~65	第5課 文法4				授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)	
	66~73	第6課 文法5(1)				授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)	
	74~81	第7課 文法5(2)				授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)	
	82~89	第8課 文法6(1)				授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)	
	90~97	第9課 文法6(2)				授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)	
	98~105	第10課 文法7(1)				授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)	
	106~113	第11課 文法7(2)				授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)	
	114~121	第12課 文法8				授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)	
	122~129	第13課 文法9(1)				授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)	
	130~137	第14課 文法9(2)				授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)	
138~145	第15課 文法10(1)				授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
146~150	まとめ				授業の前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
確認テスト	◎	◎		○		50%	
履修上の注意							

科目名	会話Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	藤井成樹		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)1年						
授業概要	コミュニケーション能力を伸ばすことに重点を置き、自分が「伝えたいこと」を日本語で表現するには、既に知っている言葉や表現、文法のどれをどのように使えばいいかを学びます。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○		○	語や句ではなく、文または複文で会話ができる。		
	○	○		○	質問に答えるだけでなく、関連する情報を付け加えて積極的に会話に関わることができる。		
	○	○		○	カジュアルかフォーマルかを意識して適切に伝えられる。		
テキスト・教材 参考図書	加藤早苗 『WEEKLY J』 凡人社 2012年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ユニット12 意見を言う			習った会話を実際の場面で積極的に使うこと(0.5時間)		
	2	ユニット14 失敗談を話す			習った会話を実際の場面で積極的に使うこと(0.5時間)		
	3	ユニット15 聞いた話をもとに人に伝える			習った会話を実際の場面で積極的に使うこと(0.5時間)		
	4	ユニット18 謝る			習った会話を実際の場面で積極的に使うこと(0.5時間)		
	5	ユニット21 状況を聞く・答える			習った会話を実際の場面で積極的に使うこと(0.5時間)		
	6	ユニット24 経験に基づいてアドバイスする			習った会話を実際の場面で積極的に使うこと(0.5時間)		
	7	ユニット25 相手に苦情、文句を言う			習った会話を実際の場面で積極的に使うこと(0.5時間)		
	8	ユニット26 誘い・依頼を断る			習った会話を実際の場面で積極的に使うこと(0.5時間)		
	9	ユニット28 うれしかったこと、嫌だったことについて話す			習った会話を実際の場面で積極的に使うこと(0.5時間)		
10	ユニット30 問い合わせる			習った会話を実際の場面で積極的に使うこと(0.5時間)			
評価方法	(1)定期試験(口述)を実施する。(2)中間試験(口述)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				
中間試験	◎	◎		◎			
履修上の注意							

科目名	聴解Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	藤井成樹		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)1年						
授業概要	日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードのまとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、要旨がわかるようになることを目指します。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		日常生活の身近な場面での会話で、だいたいの内容が理解できる。	
	○	○		○		身近な話題のニュースやアナウンスが聞き取れる。	
テキスト・教材 参考図書	佐々木仁子・松本紀子 『日本語総まとめN3聴解』 アスク出版 2011年 佐々木仁子・松本紀子 『日本語総まとめN2聴解』 アスク出版 2017年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第4章4・5				教科書の該当範囲の新出語を予習しておくこと。(30分)	
	2	第5章				教科書の該当範囲の新出語を予習しておくこと。(30分)	
	3	第1章1・2				教科書の該当範囲の新出語を予習しておくこと。(30分)	
	4	第1章3・4				教科書の該当範囲の新出語を予習しておくこと。(30分)	
	5	第1章5 第2章1				教科書の該当範囲の新出語を予習しておくこと。(30分)	
	6	第2章2・3				教科書の該当範囲の新出語を予習しておくこと。(30分)	
	7	第2章4・5				教科書の該当範囲の新出語を予習しておくこと。(30分)	
	8	第2章6・7				教科書の該当範囲の新出語を予習しておくこと。(30分)	
	9	第3章1・2				教科書の該当範囲の新出語を予習しておくこと。(30分)	
	10	第3章3・4				教科書の該当範囲の新出語を予習しておくこと。(30分)	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)中間試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
中間試験	◎	◎		○		50%	
履修上の注意							

科目名	作文Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	藤井成樹		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)1年						
授業概要	400字程度のやや抽象的、専門的な作文が書けるようになることを目指します。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		丁寧体と普通体を使い分けることができる。	
	○	○		○		主語と述語がそろった正しい文が書ける。	
	○	○		○		自分の意見を客観的に述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	日本語教育教材開発委員会 『学ぼう！にほんご作文練習帳』 専門教育出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第6節 時間の経過を伝える①			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	2	第6節 時間の経過を伝える②			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	3	第7節 2つの物事を比較する①			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	4	第7節 2つの物事を比較する②			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	5	第8節 自分の意見を主張する①			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	6	第8節 自分の意見を主張する②			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	7	第9節 さまざまな角度から物事を考える①			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	8	第9節 さまざまな角度から物事を考える②			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	9	第10節 事実をもとにアドバイスをする①			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	10	第10節 事実をもとにアドバイスをする②			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)宿題を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	宿題	◎	◎		○		50%
履修上の注意							

科目名	読解Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	藤井成樹		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)1年						
授業概要	一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図が理解できるようになることを目指します。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○		○	550字程度の解説やエッセイを読んで、概要や論理の展開が理解できる。		
	○	○		○	知らない言葉や文法が多少あっても、前後関係から意味を推測できる。		
テキスト・教材 参考図書	渡邊亜子・菊池民子 『スピードマスターN3読解』 Jリサーチ出版 2010年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	実戦練習 中文①			指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	2	実戦練習 中文②			指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	3	実戦練習 中文③			指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	4	実戦練習 中文④			指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	5	実戦練習 長文①			指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	6	実戦練習 長文②			指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	7	実戦練習 長文③			指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	8	実戦練習 長文④			指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	9	実戦練習 情報検索			指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	10	模擬試験			指定された宿題を行うこと。(1時間)		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)中間試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
中間試験	◎	◎		○		50%	
履修上の注意							

科目名	文字語彙Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	藤井成樹		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)1年						
授業概要	日常生活でよく使われる約1400語を、トピック・使い方などのグループごとに学びます。JLPT N3、N2の言語知識だけでなく、読解や聴解にも役に立ちます。						
授業形式	講義	○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		幅広い場面で必要な語彙の意味や用法を正しく理解し、使うことができる。	
	○	○		○		派生語や複合語が使える。	
テキスト・教材 参考図書	佐々木仁子・松本紀子 『日本語総まとめN3語彙』アスク出版 2010年 佐々木仁子・松本紀子 『日本語総まとめN2語彙』アスク出版 2017年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第6週①				授業前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は復習をすること。(1時間)	
	2	第6週②				授業前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は復習をすること。(1時間)	
	3	第1週①				授業前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は復習をすること。(1時間)	
	4	第1週②				授業前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は復習をすること。(1時間)	
	5	第2週①				授業前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は復習をすること。(1時間)	
	6	第2週②				授業前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は復習をすること。(1時間)	
	7	第3週①				授業前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は復習をすること。(1時間)	
	8	第3週②				授業前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は復習をすること。(1時間)	
	9	第4週①				授業前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は復習をすること。(1時間)	
	10	第4週②				授業前に該当範囲の新出語を予習し、授業後は復習をすること。(1時間)	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
小テスト	◎	◎		○		50%	
履修上の注意							